14日 水曜

民数

22:31 そのとき、【主】はバラムの目の覆いを除かれた。すると彼は、【主】の使いが道に立ちはだかり、抜き身の剣を手に持っているのを見た。彼はひざまずき、伏し拝んだ。
22:32 【主】の使いは彼に言った。「何のために、あなたは自分のろばを三度も打ったのか。わたしが敵対者として出て来ていたのだ。あなたがわたしの道を踏み外していたからだ。
22:33 ろばはわたしを見て、三度もわたしから身を避けた。もし、ろばがわたしから身を避けていなかったなら、わたしは今すでに、あなたを殺して、ろばを生かしていたことだろう。」
22:34 バラムは【主】の使いに言った。「私は罪を犯していました。あなたが私をとどめようと道に立ちはだかっておられたのを、私は知りませんでした。今、もし、あなたのお気に召さなければ、私は引き返します。」
22:35 【主】の使いはバラムに言った。「その人たちと一緒に行け。しかし、わたしがあなたに告げることばだけを告げよ。」そこでバラムはバラクの長たちと一緒に行った。
22:36 バラクはバラムが来たことを聞いて、彼を迎えに、国境の端にあるアルノンの国境のイル・モアブまで出て来た。
22:37 バラクはバラムに言った。「私はあなたを迎えようと、人を遣わさなかったでしょうか。なぜ、私のところに来てくださらなかったのですか。私には、あなたをおもてなしすることが、本当にできないのでしょうか。」
22:38 バラムはバラクに言った。「ご覧なさい。私は今あなたのところに来ているではありませんか。私に何が言えるでしょう。神が私の口に置かれることば、それを私は告げなければなりません。」
22:39 バラムはバラクと一緒に行き、キルヤテ・フツォテに着いた。
22:40 バラクは牛と羊をいけにえとして献げ、それをバラムおよび彼とともにいた長たちにも贈った。
22:41 朝になると、バラクはバラムを連れ出し、彼をバモテ・バアルに上らせた。バラムはそこからイスラエルの民の一部を見た。

Bible Reference 聖書の記述

第二ペテロを見ると、バラムがバラクからの贈り物に目がくらんで、神の意に反したのだとわかります。ろばが恐れて引き返そうとしたことで、彼は助かったのですから、バラクのところに行くのをやめるべきでした。しかし「もし、あなたのお気に召さなければ、私は引き返します。」と、分りきったことを再度訪ねているのです。彼は何も聞かずに引き返すべきだったのです。

私たちも、主の御心に反していると分っていながら、主からの示しがあればやめます…などと言いつつ続けていることはないでしょうか。主は従う気がないことを御存知です。

モアブの王バラクの目的は分っていました。すなわちイスラエルを呪うことです。しかし、バラムは呪いの占い師として、そこに行ってしまいました。もしも神からのお告げがバラク王の気に入れば、相当の財が手に入るだろうとの期待があったからです。

しかし結局神はイスラエルを呪うことを許しませんでした。悪霊がイエス様を神の子と認めて恐れたように、また悪霊がパウロ一行を神の預言者と認めたように、占い師バラムも神の力を認めざるを得なかったということでしょう。

バラムのように表面的・部分的には神に従っているように見えても、その動機が問題です。主に従順であるかどうか…。自分も含めてよく吟味して、その人に働いている霊を見分けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？